

烏山地域オウム真理教対策住民協議会が催す

第3回

リ

サ

イ

ク

ル

新品
いっぱい

バザー

8年間活動を続けてきた
住民協議会にご協力
をお願いします。

売り切れ次第閉店します。

4月11日(土) 午前10時~

烏山区民センター広場

(雨天の場合は3階集会室で行います)

オウム
対策
住民
協議
会
ニ
ュ
ー
ス

烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

掘り出し物いっぱい

- ・石けん
 - ・乾物類
 - ・陶器・ガラス製品
 - ・ブラウス
 - ・セーター
 - ・ジャケット
 - ・シャツ
 - ・子供服
 - ・アクセサリー
 - ・おもちゃ・ぬいぐるみ
 - ・時計・ポット
 - ・ハンドバック
 - ・シーツ
 - ・タオル
 - ・その他商品
- 多数あります

※衣類は新品か、クリーニング済みの提供をお願いします。

●お問い合わせ:
03(3326)6134

下記場所へ物品提供をお願いします

4月10日(金)

午前10:00~12:00 烏山区民センター 3階 集会室

●物品は、住民協議会
の方に直接渡してい
ただいても結構です。



麻原死刑囚の再審請求を認めず

地下鉄・松本向サリンなど、13事件で殺人、同未遂の罪に問われ、死刑が確定した、オウム真理教の麻原彰晃死刑囚(本名松本智津夫)が、再審請求していたが、東京地裁は18日までに請求棄却を決定した。

請求は同事件の被告、元幹部遠藤誠一(1、2審死刑、上告中)が、自身の控訴審で、「事件は麻原の指示でなく、故村井秀夫元幹部が勝手に引き起こした」と供述し、審理のやり直しを求めたが、東京地裁は「被告は麻原死刑囚への帰依を鮮明にしておらず、供述に信用性がない」として、「判決の認定を覆す新証拠とはいえない」と指摘した。

再審請求は麻原死刑囚の次女が昨年11月に申し立てたが、わずか4か月で退けられた。

この場に及んで麻原はまた命乞いをしたのか。再審請求をされると、その期間中は死刑の執行ができないうらしい。エセ仏教者のあさましい姿を現実にして現信者の心も穏やかではないでしょう。

(記事の一部は3月19日付新聞「ニュースより」)

どなたでも自由に参加できます。
一歩でも二歩でも参加してください。

第18回 抗議デモ・学習会

5月16日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 オウム真理教問題を風化させない!!

日本中を震撼させたオウム真理教による国家的テロ、地下鉄サリン事件から14年が経過した。獄中にある元教祖麻原彰晃は死刑が確定したが、公判中の元信者の多くは未だ公判中が多数をしめる。

そして、オウム真理教の生き残りは名前を「ひかりの輪」「アレフ」と変え、私たちが居住している地に集団で居住し、布教活動をおこなっている。どのような目的でオウム真理教は数多くの事件を起こしたのか。現在の「ひかりの輪」「アレフ」の本質は何かなど、お話をしてもらいます。

●講師：杉田和博氏

略歴 埼玉県出身、東京大学法学部卒業、昭和41年警察庁へ。57年内閣官房長官秘書官事務取扱。60年警視庁第一方面本部長、鳥取県・神奈川県警察本部長を歴任。平成6年警視庁警備局長。平成13年内閣危機管理監をへて16年に退任。以後、東海旅客鉄道株顧問。

主催：烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会 共催：世田谷区

新樹苑餅つき大会で署名・募金活動

3月15日、久しぶりの晴天に恵まれた日曜日、高齢者福祉センター新樹苑で第21回(!)餅つき大会が催されました。地域一体を目指す福祉センターを、その地域の商店街、町会、大学の強力なサポートが盛り上げていました。

降り注ぐ光の下には、豚汁の匂い、玩具に興じる子供の声、餅をつく掛け声があふれていましたが、最も目を引いたのは、無料で配られるお餅を待つ行列でした。お餅配りが始まる30分前から、近くの方々が家族で集まりだし、50人位の行列を作っていました。住民協議会も「オウム反対」のノボリを掲げ、署名用紙と募金箱を行列に沿って広げました。場所がよかった。待ち時間に目に入るのは、ノボリやタスキをかけた知り合いの協議会メンバーの顔。待っている時間を使って、多くの方が署名をしてくださりました。

八幡山や上北沢の皆さんは、住民協議会の「観察処分」期間更新や「団体規制法」存続に向けた署名運動をよく知

っていました。それも、監視小屋当番を通して、住民協議会の活動を身近なものにして下さっているお陰と感謝しました。皆様の協力で成り立っている協議会です。これからも宜しくお願いいたします。



コラム「声」 第1回 協議会会員 Oさん

昨年12月でオウム真理教(ひかりの輪・アレフ)との闘いも9年目にはいりました。今月号からコラム「声」の連載を始めることになりました。

8年間の活動を振り返りながら、新たな活動へと繋がればと考えています。

「私たちの活動が、オウム真理教に対しての抑止力になれば・・・」

物腰静かで、おおらかな姿は、一見どこにでも居る普通の主婦ですが、内に秘めた闘志は人一倍です。

住民協議会の活動で、この人を見かけない時を探す方が困難かも知れません。オウム真理教の監視活動、学習会・抗議デモ、署名・募金活動、各種集会など目立つ存在ではないが、この人がいるだけで、安心感を周囲に感じさせます。

2000年12月、オウム真理教が集団居住してきて、町会

の方達と施設に立ち入った時「恐怖心より、信者が薄汚く、気味が悪い印象だった」と語り、オウム真理教が烏山にきた経過についても、複雑な表情で顔をくもらせた。「この頃は、回りの人達も、オウム真理教に関心を持たなくなってきましたね」「署名・募金活動やビラ配布でも、受け取ってくれる人が少なくなってきました」そういいながらも表情を引き締め「私たちが、監視活動や様々な活動をしていることが、布教活動の抑止力になっているんだと思います」と核心を突く言葉。「学習会や抗議デモにも、もっと多くの方が気楽に参加できるようにしたいですね。」8年間の活動は「長く、疲れる」と言いながら、最後に、これまで街の中で様々な活動で培った、回りの人からの信頼を感じさせる言葉で、締めくくってもらいました。「私の周囲には協力してくれる人が沢山いるので、新しい活動も提案してみます」

パンフレット「こんな勧誘にご用心」

烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会では、今年も区内大学新入生にカルト対策として、日本脱カルト研究会発行のパンフレット「こんな勧誘にご用心!」を配布します。オウム真理教の信者勧誘は相変わらず続けられています。教団がひかりの輪とALEPH(アレフ)が内部分裂しても、それぞれが巧妙な手口で信者獲得をしようとしています。特に若者たちは、大学のキャンパスや街頭などで、入信させられる危険があります。

再び、地下鉄サリン事件など、過激な行動の犠牲にならないように、なんとしても若者たちを守ることも、私たちの活動の一つです。

今年は、以下の大学が配布に協力してくれます。

国立館大学・駒澤大学・東京都市大学・日本女子体育大学・昭和女子大学・東京医療保健大学・多摩美術大学・日本大学文理学部



住民協議会活動報告

3月 7日(土) 若返り桃まつり会で募金活動
3月 15日(日) 新樹苑餅つき大会で署名・募金活動
3月 23日(月) 「協議会ニュース84号」初校正

3月 24日(火) 住民協議会
3月 30日(月) 「協議会ニュース84号」再校正
4月 6日(月) 「協議会ニュース84号」発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。